

令和8年9月25日

林野庁北海道森林管理局計画保全部治山課
林野庁北海道森林管理局後志森林管理署

岩内町の水源を守るために 航空実播工による緑化と小型 SAR 衛星による監視に取り組みます

令和8年5月に岩内町の国有林内で発生した斜面崩壊に伴い、河川の濁度上昇が確認され、これに伴い断水が発生しました。

北海道森林管理局後志森林管理署では、岩内町の重要な水源を守るため、土砂流出リスクの低減を図るべく、航空実播工（ヘリコプターにより緑化資材を散布する工法）による早期緑化と小型 SAR 衛星を活用した斜面監視（実証確認）を組み合わせた緊急対策を実施します。

国有林の管理者として、地域住民の安全・安心の確保と安定した水資源の保全に取り組めます。

断水事案の概要

崩壊箇所は、岩内町取水施設から直線で約4km 上流に位置し、崩壊規模は幅約50m×長さ約80m で、発生した土砂の一部が河川へ流出し、濁度上昇の一因になったと考えられています。

航空実播工による緊急対策

ヘリコプターにより緑化資材を散布し、早期緑化による表面侵食防止と土砂流出抑制を図ります。

期待される効果

1. 裸地斜面の侵食防止
2. 濁水発生リスクの低減
3. 工事用道路不要による環境負荷軽減
4. 広範囲の迅速施工

環境への配慮

水源かん養保安林及び国定公園区域であることを踏まえ、水質保全や生態系への影響に配慮した資材を選定します。

小型 SAR 衛星技術を活用した斜面監視（実証確認）

小型 SAR 衛星を活用した、崩壊地及び周辺斜面の継続監視（実証確認）を実施します。

SAR（合成開口レーダー）衛星は、レーダーを利用して地表面を観測する衛星で、光学衛星と比較して昼夜や天候の影響を受けにくい特徴があります。

衛星技術を活用することで、人の立ち入りが難しい山地についても広域かつ継続的な監視が可能となり、災害リスクの早期把握と効率的な現地調査につながります。

【主な監視内容】

- ・ 崩壊地の変動状況の監視
- ・ 上部地すべりブロックの変動状況の監視

上記の変動状況により、人の立ち入りの難しい山地への現地調査の効率化が図れます。

今後の取組

航空実播工による早期緑化は、降雨や融雪に伴う土砂流出リスクの低減を図るための緊急的な取組です。航空実播工の実施後も、地上調査や小型 SAR 衛星を活用した継続的な監視を行い、崩壊地及び周辺斜面の状況把握に努めるとともに、その結果を踏まえながら必要な対策を検討・実施してまいります。

お問い合わせ先

林野庁 北海道森林管理局 計画保全部 治山課
担当者：専門官（災害調整）、災害対策分析官
電 話：０１１－６２２－５２４６

林野庁 北海道森林管理局 後志森林管理署
担当者：次長、総括治山技術官
電 話：０１３６－２２－０１４５



国民の森林・国有林

位置図



凡例： — 国有林境界

岩内町、北海道開発局、北海道との合同ヘリコプター調査（令和8年5月26日）



ヘリコプターによる緑化イメージ（出典：関東森林管理局ホームページ）



施工前

施工後

